

## 生涯学習支援ネットワーク診断ガイドライン（試案）

- 1 ネットワークとしての特性に関すること
  - 1-1 メンバーはそれぞれ独立しているか。ネットワーク関係者から介入されていないか。

メンバーはそれぞれ経済的に独立し自由に意思決定できることが重要であり、他のメンバーに過度に依存したり、命令されたり強制されたりしてはならない。
  - 1-2 メンバーの意思や主体性は尊重されているか。

それぞれのメンバーは自由に意思表示でき、主体的に行動できる環境にあること、それが価値あるものとして認識されていることが重要である。
  - 1-3 メンバーの参加や脱退が自由になっているか。

メンバーの意思は尊重されるので、ネットワークへの参加はもちろん脱退も自由で、それを何人も阻止することはできない。
  - 1-4 メンバーの権限と責任が分散しているか。

メンバーそれぞれの特性・個性や保有する資源を生かして全体や共通の目標に貢献することが重要なので、それが可能になるようにそれぞれが為すべきことについての権限と責任をもつことになる。
  - 1-5 メンバーが果たすべき役割は固定化していないか、可変的で柔軟であるか。

柔軟なネットワークであるためには、メンバーの役割は固定化されることなく、状態に応じて可変的であることが望まれる。
- 2 活動目的・ミッション・目標に関すること
  - 2-1 活動目的が明確か（指向性）

ネットワークの場合外部からコントロールされることはないので、ともすれば進むべき方向を見失いがちである。進むべき方向を見失わないようにするためには、常に活動の目的を明確し確認することが大事である。
  - 2-2 活動目的がメンバーに共有されているか  

明確にされた活動目的は、メンバー全員に共有される必要があるので、共有されているかどうかを確認する必要がある。
  - 2-3 ミッションが明確か（指向性）

ミッションが自覚できれば多少の苦難にも耐え、困難に立ち向かっていこうという意欲をもつことができるものである。  
また、ミッションに対してどれほど貢献できているかが各々のメンバーにとって価値をもち、資源提供に対する対価にもなるので、その意味でもミッションを明確にしておくことが重要である。
  - 2-4 ミッションがメンバーに共有されているか  

ミッションはメンバー全員に共有される必要があるので、共有されているかどうかを定期的に確認することが望まれる。

- 2-5 到達目標が具体的に示されているか（指向性）  
到達目標が示されていると行動しやすくなるので、可能な限り具体的に示すことが望まれる。
- 2-6 到達目標がメンバーに共有されているか  
具体的に示された到達目標は、メンバー全員に共有される必要があるため、共有されているかどうかを確認する必要がある。

### 3 資源の到達可能性に関すること

- 3-1 行動ルール(例:いつ、どこで、どのように資源を提供・交換するか、等)が決まっているか  
資源は必要なときに必要なところに届くようにしなければならない。メンバーが勝手に資源を提供しようとすればかえって混乱が生じかねない。ハブとなる組織等の指示との関係で行動ルールをつくっておき、メンバーはその行動ルールを理解しておくことが望まれる。
- 3-2 行動ルール(例:いつ、どこで、どのように資源を提供・交換するか、等)の改善ルールが決まっているか、あるいはその仕組みができていないか  
行動ルールは硬直的であってはならず、状況の変化に応じて改善できるようにすることが望ましい。改善の必要があると判断されたときにその検討を行う手順やルールが決まっていることが望ましい。
- 3-3 行動ルール(例:いつ、どこで、どのように資源を提供・交換するか、等)がメンバーに共有されているか  
生涯学習支援ネットワークは生涯学習支援のために資源提供・交換を行うものであるため、いつ、どこで、どのように資源提供・交換するかについての情報がメンバーに共有されている必要がある。
- 3-4 資源提供・交換が停滞していないか（活性）  
資源は必要としているときに必要としているところに届くようにしなければならないが、間違った情報が流れたり参加意識が薄れたメンバーのところで資源や情報が滞ってしまったり、マッチングのミスにより必要としているところに到達していない等を定期的に調べる必要がある。
- 3-5 資源の最大提供・交換量が決められているときに、その量を超えて提供・交換されていないか
- 3-6 資源提供・交換が迅速に行われているか（迅速性）  
資源が必要なときに届くように、求める情報や届ける情報や物流が迅速に流れるように気をつけておかねばならない。
- 3-7 メンバーが資源提供・交換できる機会が公平に開かれているか（トランジションが公平に発火可能か）  
相手や時期によって資源提供・交換が行われたり行われなかったりしないようにする必要がある。資源提供・交換が行われたり行われなかったり、スムーズであったりそうでなかったりすると誤解を生んだり信頼が得られなくなったりして、ネットワークの衰退を招くことに

なる。

3-8 各メンバーの資源の提供と受け取ることのバランスがとれているか (保存性)

メンバーに資源を提供することだけを課せられると、メンバーは何のメリットもなく負担ばかり被らねばならないことに不満をもつようになり脱会してしまう。そうならないためには資源提供と等価のものが得られるようにすることが大事である。得られるものには物質や情報のみならず、社会貢献により得られる社会的信用や称賛、満足度なども含まれる。

3-9 各メンバーとも、資源提供・交換により需要が満たされているか (充足性)

目的達成のためにメンバーはそれぞれ資源提供や資源交換を行うが、それによって目的達成のために必要な資源を入手したり、社会的信用を獲得したり社会的責任を果たしたりして、メンバーにとっても相応のメリットが得られていることが重要である。需要が満たされていないと参加意欲を減退させたり喪失させたりしかねないからである。⑤-1との違いをいえば、満たされていない需要は何かを具体的に明らかにすることである。

3-10 各メンバーの間のメリット、デメリットが偏在していないか (互惠性)

特定のメンバーだけにメリットが集中したり負担が集中したりすると不公平感を感じるようになる。そのようになると参加意欲を減退させたり喪失させたりしかねない。メンバーがそれぞれ何らかの負担をし、相応のメリットが得られているようにする必要がある。

4 資源に関すること

4-1 目標達成のために必要な資源の種類が明確になっているか (有界性)

必要とされる資源はときと場合でさまざまであろうが、目標達成のために何が今必要とされているかが明確になっていることが重要である。

4-2 目標達成のために必要な資源がネットワーク内で確保されるか

必要とされる資源がネットワークのいずれかのメンバーによって調達可能であることが求められる。必要な資源がネットワーク外にある場合でもメンバーがそれを確保できれば問題はない。もし当該ネットワークの能力では確保できない場合には、ネットワークの拡大を図る等、当該ネットワークのあり方の検討が必要になるろう。

4-3 目標達成のために必要な資源が調達されているか

目標達成のために必要な資源が確保できており、不足していないことが求められる。